



【神の御言葉によって勝利する2013年】

聖書本文:マタイの福音書4章1-11節/ 暗唱: テモテ人への手紙第二3:15-16

説教者: 鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

愛する信仰の家族のみなさん！先週一週間もお元気でしたか。2013年、今年入ってから私たちは御言葉に従う人生の祝福について学んで、そのように生きようと目指しています。きっと御言葉の約束通りに今年主の御言葉に従順すれば、申命記 28章の祝福をみんな経験することができると思います。しかし、だからと行って今年ずっと万事好都合(ばんじこうつごう)であるということではありません。きっと今年の中にもさまざまな試練や戦いがあるはずで、それはこの地上で生きているうちにはさまざまな戦いや苦難は続くのは仕方ないかも知れません(使徒ペテロは我々がクリスチャンとして人生を送る時、苦難に直面したら苦難を受けることをおかしいことだと思わないようにとすすめています。第一ペテロ4章12節です。[愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく]、つまり、火のような試練や戦いは人生の中でかならずあることを示す御言葉です)。

しかし、神の御言葉はただ、我々に祝福だけ約束されているのではなく、人生に続くさまざまな戦いや苦難の中でも勝利を与えて下さることも約束されていることを今日は共に学んで生きたいと思えます。

今日の本文はみなさんもよく御存知の内容でしょう。地上に来られたイエス様も試みを受けました。マタイの福音書4章はイエス様の公(おおやけ)の働きが始まる前にサタンに試みを受けている場面です。大切なのはイエス様がどうやってこの試みや戦いを乗り越えることができたのかです。一言で言うとその鍵は御言葉にありました。今日の本文を見ると、三度もイエス様は“書いてある…(マタイ4:4,7,10)”と言われました。

イエス様は今回だけではなく、私的にも、公にもすでに記されていた旧約聖書の御言葉を66回引用されましたし、90回以上旧約聖書の御言葉を暗示的に使われました。つまり、神であるイエスキリストさえも、御言葉からはなれず、その御言葉を用いていつもその御言葉の力によって勝利されたことが分かります。

愛する信仰の家族のみなさん！

悪魔の試みから我々を守り、勝利を得させる一番強力な武器(ぶき)は何でしょうか。それはいつも神様の御言葉が思い出されるようにし、神様の御言葉を近くに置くことです。私たちが神様の御言葉をつかまると御言葉が我々をつかまります。我々がいくら救われた聖徒だと言っても御言葉が我々の中で生きていて働かないと我々はいつサタンの攻撃の対象になるかわからないことを忘れてはいけません。ですからイエス様も弟子であったペテロにこう言われました。ルカの福音書22章31節で、“シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。”

今日の本文のおもしろいのは悪魔も聖書の御言葉を引用したことです。

マタイの福音書 4章6節で“書いてありますから…”これも悪魔が言った言葉です。彼は詩篇91編11-12節の御言葉を引用したのです。ですから我々がサタンとの様々な誘惑や戦いの中で打ち勝つためには悪魔よりもっと神様の御言葉を知らなければなりません。我々が試みに陥られたときを振り返って見るとかならず共通点があります。それは自分が神の御言葉から離れていてまさに自分ひとりになっていた時ではなかったでしょうか。

【1. 私たちには御言葉とともにする敬虔な習慣を確実に身につける必要があります！】

我々に御言葉といつも共に習慣が必要な理由として試みを打ち勝つためだと調べました。しかし、それにもかかわらず、人間のよわさのため試みに陥られてしまったなら、どうやってその窮地(きゆううち)から抜け出すことができるでしょうか。そのとき、また必要とされることも御言葉です。ペテロはイエス様を三度否定してどうやって悔い改めることができ、人生をやり直すことができたのでしょうか。

イエス様が言われた言葉を思い出したからです。ルカの福音書22章61-62節を見てみてください。

[主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言う。」と言われた主のおことばを思い出した。彼は、外に出て、激しく泣いた。]

何がペテロを悔い改めの座に導きましたか。御言葉です。イエス様のおことばを思い出したのです。誘惑に失敗しても、戦いに倒れたとしても思い出せる、自分が捕まえる主の御言葉があれば、悔い改め、また立ち上がることができるのです。

しかし、ふだん、御言葉を自分の中に蓄(たくわ)えておかなければ、どうやってその言葉を思い出すことができるのでしょうか。ヨハネの福音書14章26節の御言葉のように、“…わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。” そういうわけで、負担自分が読んで来た、黙想して来た、聞いてた聖書の御言葉が自分にいつもあるかどうかが大変なのです。

愛するみなさん信仰の家族のみなさん！ イエス様が十字架につけられる前夜弟子たちのためにささげられた最後の祈りを覚えていますか。イエス様にとって大切な祈りの課題は何でしたか。それは弟子たちがこの世の悪に陥らないで、きよく生きることでした。ヨハネの福音書17章15節をみてみてください。[彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。]

それはどうやって可能だったのかイエス様は続けてこのように祈られました。

[真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。(ヨハネの福音書17:17)]

この理由でイエス様は我々に自分を悪から守り、自分をきよくすることができる神の御言葉をプレゼントとして与えてくださったのです。

今日、我々はこの尊い主の御言葉が我々に手にまで届いているのにもかかわらずそれをどれだけ活用していますか。使われてない武器は無用(むよう)です。神様の御言葉を近くにおいて、読みましょう。そして、たびたび黙想しましょう。覚えるよう努力しましょう。それが我々が様々な戦いの中で自分を守り、きよくされる唯一な道なのです。

[2. 主のみこころを成し遂げるために]

神様の御言葉をいつも読み、覚えることが主のみこころを成し遂げることとどんな関係があるのでしょうか。

聖書の御言葉自体が神様の御心の啓示です。ですから、御言葉を近くに置き、よく読み、黙想すれば我々の人生も神様の御心に近くなるのではないのでしょうか。イザヤ預言者はあらかじめ、主の御言葉に対してこう言いました。

[そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、むなく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送ったことを成功させる。](イザヤ55:11)

イエス様御自身がその模範を見せて下さいました。公の働きを聖書の御言葉から始まったイエス様はその生涯を十字架の上で御言葉を思い出しながらまとめました。[「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったですか。」という意味である。(マタイ27:46)] これはほんらい詩篇の22編1節の御言葉だったのです。

[父よ。わが霊を御手にゆだねます。(ルカ23:46)]。このイエス様の告白も詩篇31編5節の御言葉でした。イエス様はまさに苦しみのその瞬間でさえ御言葉を覚えて、黙想しながら十字架をとおして神様の御心を成し遂げることができました。イエス様は御言葉を覚えながら十字架での苦しみを耐え、ついに贖いのきよい使命をはたした後、“すべてが全うされた”と叫びました。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

テモテ人への手紙第二3:15-17を読んで見ますと、「15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができますのです。16聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正(きょうせい)と義の訓練とのために有益です。:17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」と書かれています。

神様の御言葉のみが私たちに人生のただししいことを教え、戒めを通して注意させ守り、自分の間違っている所、悪い所を矯正し変えて下さり、義の訓練を通してキリストの似た者となるようにさせる物(エペソ人への手紙4章15節)であることが分かります。それによってあらゆる面において私たちを成熟と成長をともなって、我々に向う神の素晴らしい計画と御心が成し遂げられるようにふさわしい働きができるように私たちを十分に整えて下さると約束されています。今年も神様のご計画と御心がすべて自分の人生に、家庭に、主の教会にかなえられることを望んでいる方は主の御言葉に親しんでいなければなりません。

[3. 打ち勝つ人生として生きるために]

今日の本文にはイエス様は荒野でサタンの試みにあわれた時、イエス様がサタンを追い出し、誘惑に打ち勝った方法は何であるか私たちはよく教えられました。何か超能力や神秘的な方法で打ち勝ったのですか。そうではありませんでした。ただ、イエス様は神様の御言葉を持って大胆に宣言し、敵対されるだけでサタンは自分の目的を達成できず逃げ去ったのです。イエス様の引用された神様の御言葉はサタンの頭を打ち下ろす鋭い剣のようでした。

今日私たちもみなキリストの信じるクリスチャンであり、神の子供ですので、神様は私たちにまでもその神様の御言葉を我々の手に与えて下さって日々用いることができる権威を与えてくださいました。これがクリスチャンに与えられている一番の特権であり、祝福ではないでしょうか。

どなたがヘブル人への手紙4章12節を読んで見ましょう。

「神の言葉は生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄(こつずい)の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」

ここでは神様の御言葉はするどい剣のような物であると例えられています。

、「魂と霊、関節と骨髄」とは、私たちの肉眼(にくがん)では見ることでできない深く隠された部分のことを意味しているのです。そして、「魂と霊、関節と骨髄を刺し通す」ということばの意味は、神様のみことばは、表に表れてこない、人の心の中の考えやはかりごとさえも、その本質をはっきりととらえ、明らかにすることができるということの意味します。また、ただ明らかにするだけでなく、変えるという意味も含んでいます。

御霊の剣である神の御言葉はすべてのすべてを鋭く刺し通してその中に隠されているすべての真実をさらけ出されることができます。神様の御言葉は私たちが隠して置いた汚れている、きたない罪のすみずみさえまで神様の前ではさらけ出し癒し、回復する力があります。神の御前であらゆる誘惑と偽りと罪をわきまえることができるようにし、その原因がいったいどこから来たのかをわかって対抗することができ、そして打ち勝つことができるように助けてくれます。

今日も神様の御言葉は御霊の剣として私たちの信仰と良心に訴え、私たちの霊を目覚めさせるのに働かれます。それだけではなく、イエス様が荒野で御言葉によってサタンの誘惑と試みに打ち勝ったように神の御言葉を用いて誘惑と罪から勝利をすることができる神様のものです。

この秘訣をすでに知っていた人がいました。だれだったでしょうか。それはダビデでした。彼は勝利の秘訣はまさしく神の御言葉であることをよく知っていたので、詩篇119編の長い詩の中、神様の御言葉についてこのように告白しました。ダビデはどんなに疲れていても主の御言葉を慕い求めどんな苦しみと艱難の中でもむしろ神の御言葉によって喜ぶことができました(詩篇119篇141-143)。神様の御言葉があったため自分が生かされ滅ばされなかったと告白しています(詩篇119篇92-93節)。詩篇119篇97-98節では神の御教えを愛し、一日中自分の思いとなり、神の仰せによって自分は自分の敵より賢くされたと告白しています。

普段いつも神の御言葉を愛していたダビデだったため、ほかの人々にはできないだろうと思っていた巨人のコリアテの前でさえも恐れず、大胆に出て行き、打ち勝つことができたのです。その勝利はいつも身につけていた神の御言葉の剣があったから可能だったと信じます。

愛するみなさん!ですから御霊の剣である神の御言葉に近づくことは私たちには祝福と勝利の秘訣であることを信じてください。自分の力だけではまた負けてしまいますが、神の御言葉には打ち勝てる力があります。私たちには一番強力な霊的武技である神様の御言葉があります。神の御言葉はみなさんの信仰を強めさせて下さいます。

<まとめ:もうあなたが勝利が保障された戦いをしています!主の御言葉によって打ち勝って生きましょう>

今年も様々な闘いや誘惑がたくさんみなさんに来るはずですが、しかし、神の御言葉を握っている私たちはすでに打ち勝つことが決まっている戦いをするのであることを今年中にもいつも忘れないで下さい。なぜならイエス様はすでに御言葉によって打ち勝ったからです。(ヨハネの福音書16章33節-「私がこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては艱難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。)

私たちはようやく勝っているのではありません。パウロは自信をもって言います。「しかし、私たちは、私たちが愛して下さった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的勝利者となるのです。(ローマ8:37)」なぜですか?悪魔も力がありますが、神様には勝てないからです。神様を信頼し、イエスキリストの御言葉によってすすむ人々には悪魔は決して勝てません。ヤコブの手紙4章7節です。「ですから、神に従いなさい。そして悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」神に従うことは神の御言葉に従うことです!

ですから、日々神の御言葉によって悪魔に立ち向かいましょう。

2013年!始まった今年は特別に主の御言葉と親しんで歩む年となつて、御言葉の力によって大勝利の2013年となりますように主イエスキリストの御名によって祝福し、お祈り申し上げます。アーメン!